

## 第148回和光市環境づくり市民会議定例会(全体会議)要旨

日時 平成31年1月30日(水)午後4時～午後5時  
場所 603会議室  
出席者 11名  
市長、教育長、市民環境部長、峯岸正雄、芝勝治、友國洋、渡辺康三、  
松田廣行、高橋勝緒、高橋絹世、小林新  
傍聴者 なし  
事務局 環境課 課長 亀井、課長補佐 工藤、塩野

### 1 開会

峯岸会長から開会のあいさつ。

### 2 市長・教育長あいさつ

#### ● 市長あいさつ

第2次和光市環境計画実行計画に基づく29年度の環境施策について12月21日付で評価・提言をいただいた。市政の参考にさせていただく。また、昨年度はいくつか貴重な斜面林等で確保できなかった場所と確保できた場所、双方あるが、今後なるべく貴重な斜面林等を確保するために様々な面で提言も参考にしながら邁進努力をしていく。

#### ● 教育長あいさつ

- ・教育分野で、大人は初任者研修でフィールドワーク、子供たちへは授業への協力や越戸川を使つての活動等、多面に渡ってお世話になっていることに感謝している。
- ・教員の働き方改革を実現するためには、環境づくり市民会議の皆さんの協力も必要である。そうでなければ、子供たちが楽しみにしている活動ができない状況になる可能性もある。子ども達は川に入ったり山に入ったり楽しく活動している。今後その部分については確保していきたいと考えている。

### 3 平成29年度環境施策実施状況に対する評価と提言について

峯岸会長から別紙の評価と提言についての説明。

### 4 平成30年度和光市環境基本計画推進調整委員会について

中蔦市民環境部長から報告。

### 5 意見交換

環境づくり市民会議メンバーからの意見。

#### ● 峯岸会長

急速に緑が減っていると日々実感している。大坂ふれあいの森や新倉ふれあい

の森の植生を含めて、貴重な緑地が残っているところを守ってもらえるように、資金対策等の問題もあるが、万全の対応をお願いしたい。失ってしまったら再生は不可能である。

- 芝副会長

学校で緑を大切にすることというのを若い人、子どもたちに教えることが重要ではないかと思う。和光市民の大人は関心がない人が多い感じがするのでお願いしたい。

- 友國委員

- ・ 財政の問題がある。国の制度等を承知して取り組むことが大事だと思う。緑地を残す情報を早くキャッチする必要がある。
- ・ 学校の教員が大変で負担が大きい。そのことを社会全体が理解して、対応をしていくべきだと思う。現在、学校応援団やコミュニティスクール等をやっている。学校では環境教育、花壇を整備したりしているところもある。
- ・ 学校を地域の活動の場と考えることが必要と考える。埼玉県は校庭の芝生化の予算がある。和光市の場合はどう対策されているのか聞きたい。
- ・ 和光市と朝霞市の廃棄物処理場について、効率的な運営の仕方をお願いしたい。環境に配慮して工事をしてもらいたい。

- 高橋（勝）委員

- ・ 緑地が急激に減っていつている。市は危機感があるのか。非常に疑問である。そのことは、昨年11月に開催した環境セミナーのアンケートで何人も指摘していた。この間も、大坂ふれあいの森の隣接地の件など、土地の売買の状況を現場はほとんど認識していない。緑地を保つことを考えているのか、見て取れない。財政難で緑を残すためにトラスト制度が吟味されたが、もっと研究されてしかるべきだと思う。進めていただきたい。
- ・ 市民が関与すると、逆に教員の負担が増えてしまう可能性があるのも、そういうことが無く学校に協力できるなら大変嬉しい事だと思う。
- ・ 学校の芝生化は維持が大変なので、草地化が良いと思う。猛暑の時に裸の地面と草地では十数度温度が違う。また、大雨が降った時の水害に対する水の出方もずいぶん変わる。何か協力できればいいと思う。

- 高橋（絹）委員

- ・ テレビ放映で、和光市は湧水の街として注目されたのは良いことだと思う。環境基本計画は豊かな水と緑を守ることが一番の特徴となっている。しかし、水と緑のある緑地・湧水地が急速に失われている。和光市民が環境のことをもっと大切にしていけないといけない。
- ・ 環境マップに掲載後、失われた湧水地が4か所ある。湧水の場所を残し、シンボルとして残していけないといけない。無くなることにならないようお願いした

い。

- ・開発されると木が伐採されてしまう。周りに建物が出来たからといって伐採せずにそのままにしておいてもらいたいと思う。

● 小林委員

二酸化炭素削減という立場から公共交通問題についてお願いしたい。駅南口は路線バスが充実しているが、北口は短い距離の路線バスしかない。昨年駅とSGルアルティ和光を結ぶ新しい路線バスが出来たが、直行便で市民がほとんど利用できない。途中でバス停ができると市民の足となっていていいのではないか。二酸化炭素削減に役立つと思う。次に高速バスだが、現在のバス停が駅から離れている。駅ビル建設に合わせて、バス停も駅のところに移ると、市民としても便利になるかなと思う。市として、環境問題の一つとして取り組んでもらいたい。

● 渡辺委員

- ・教員は、部活等に時間を取られる。見回りだとか、部活の指導であるとか、そういった目的のための学校応援団のようなものを作って、教員が学校教育に専念できるよう応援出来る形をとれるといいのではないか。
- ・先ほど木の話が出ていたが、ある建設会社は木を切らないことで表彰された。移転してでもその木を切らないという社訓だということだ。木は切ったら二度と生えない。和光市ではどんどん切られている。木を切るのは簡単だが、移転するなどして木を助けてやってほしい。

● 松田委員

- ・写研は現在、守衛しかいないようだが、市としてコミュニケーションをとっているのか。
- ・放映された民家園のCMで民家園にたくさん人が来てくれた。先日記者クラブのことを知った。記者クラブに積極的に情報を流したらいいのではないかと思う。
- ・先ほど湧水の話があったが、自分は外環が原因だと思う。湧水が無くなったのは外環が出来てから。それは側道にU字構が設置され、雨水が新河岸川に流れるようになったため。すべて新河岸川に流れる状況を変えるには、穴あきのU字構が必要だと分かった。

◆ 市長の感想

まず、緑地の喪失について、白子も、坂下も交渉はしている。坂下はこちらが提示した価格では残念ながらということがあった。白子は、土地の境目と借地の問題があって買うことが出来なかった。価格交渉はしているが、和光市は近隣自治体に比べると特異なところがあり、他は土地の価格が横ばいだが、和光市は非常に上昇基調にあって鑑定評価額では買えない。そこをクリアすることを考えないといけない。上谷津はその価格で買えるという事で獲得出来たが、もう一度考えていかなければと思っている。

トラストは、制度作りということが出来ていないので、しっかり作っていかなければならないと思っている。価格の問題は方法を考えていきたい。

学校の芝生化は下新倉小でやって、非常に効果はあるが、維持管理は地域の方の協力があれば出来るというところがある。その辺り学校への体制が出来れば大丈夫かなというところである。

広沢の環境への影響ということで話をいただいたが、広沢小学校寄りの木立をどう生かしていくかの工夫はしていくという話は聞いているので、エネルギー面も含めて何か照明とか、あるいは防災の観点から考えていく。

廃棄物の処理場の話もあった。CO<sub>2</sub>の濃度や熱の再利用というのもあるので、環境を考えたものを今度は作れる。

学校の応援について、コミュニティスクールの仕組みが全校出来た。その枠組みを活かして地域の人に「こういうことができるよ」というのを掘り起こす努力をしていければと思っている。特に部活の指導も、外部指導者、予算の面・人の面、二つあるので簡単ではないが、地区外の人少し入ってもらおうよう、その辺は相談しながらやるようになればと思う。

木が伐採されてしまうという話があった。それは正面から捉えて考えたことがなかったもので、開発の際の周囲への影響についてまず具体的にどういった影響を及ぼしているかをしっかり調査して、把握をしていかなければならないと思う。今後都市整備課と環境課で相談しながら現状把握していきたいと思う。

路線バスと高速バスの話をいただいたが、今、オリパラのために来年度の予算を組んでいる。南口に3つバス停を増設する。3か所増設したバス停は、オリパラが終わるまでは送迎ステーションとして使う。その後民間に開放するのでバス路線を増やせるのではないかと思う。南口に増えるが、今南口からも北口方面のバスが出ているので、どう活かすかというのはバス会社と相談しながらやっていきたい。S Gのバスについては途中バス停があると良いという話はいただいている。これは宿題で我々も話をする。

また、木を切らない建設会社の話があった。木の管理については今、実際問題で二つ考えがあり、例えば西大和団地のメインストリートの木の根上がりが高木になってきた木の空洞化とか色々な問題もあるので高齢化の対策として、景観を考えながら、しかも道路のバリアフリーが出来るようにというのを建築課とも相談しながら、木の寿命もあるのでそこを踏まえてやっていければと思っている。

写研についてだが、市としてまともなコミュニケーションがとれていない。本来あの土地を活用してもらわないとただ単に廃墟に固定資産税を払ってもらおうというだけでは大して入って来ない。今後コミュニケーションをとって、貴重な丸山台の土地なので活用に向けてもう一度アプローチを出来るかどうか考えてみる。

記者クラブだが、積極的に情報提供している。4市では和光の情報は比較的載っているかと思う。また、市の主催以外に、市民団体主催の行事も、情報をもらえれば市として発信していく。win-winの関係で市が関わっていければ良いと思う。

#### ◆ 教育長の感想

学校には県教委から指導の重点取組が配られている。これをベースにしてカリキュラムを組む。その中に「家庭や地域社会、NPO等との連携による環境教育の充

実」が入っている。これからは持続可能な社会を築き上げることも入って来るので、そういった観点で環境教育について、学校ではこれまで以上に皆さんのお世話になるかもしれない。よろしくお願ひしたい。

校庭の芝生化については、下新倉小では、県の補助を受けてやっている。ただ、地域の人々の理解を得るのが難しい。芝生なので、春先には入ってもらいたくない。そうすると学校にどうして入れないのか問合せが来る。芝生化はいいことではあるが、なかなか難しいと感じている。学校の草地化には私は大賛成だ。草を取らないようにすると虫が来て子どもたちが喜ぶ。あまり使わない部分は、自分は草にしておいたほうが子どもたちもけがをしないいいのかなということは今でも思っている。教員のことだが、従来教員には残業という意識がない。今、教員の勤務時間の実態を把握するようになった。教員達は出退勤をつけており、だんだん残業と言われる時間は減ってきている。ただ、部活には問題点がある。教員の中には部活をやりたくて教員になった人もいる。熱が入ると残業だと思わない。そういう教員がいる一方で、学校は顧問を付ける必要があるので、経験の無い先生が付く場合もある。和光市の場合には外部指導者を必要な所に配置をしているが、時間帯もあり人材がない。後はお金の問題がある。

現在和光市では全ての学校をコミュニティスクールに指定している。その中で、地域の声聞きながら例えば、環境問題についても、コミュニティスクールの中で環境部のようなものを作ってもらって、学校の教員も含めて取り組んでいかなければいけないと思う。学校が一方的にやるのではなくて、それをベースに学校応援団についても充実していくように実施しなくてはならないと思う。最近の傾向として小学校区ごとに地区社協が出来ている。これが同じような活動をしている。最近、学校応援団と地区社協の違いを質問されるが、同じような活動をしていると返すしかない。地区社協も学校応援団もあいさつ運動をやっていて、教育していただけることは嬉しい事だが、実際にやっていくといろんな課題が出てくる。教員については、残業の時間が決められている。なんでそんなことまで決めてしまうのかなと思う。そんなことをしていたら逆に先生辞めようか、と出て行ってしまう。それでなくても大量に先生方が辞めて、本当に今、教員採用試験の倍率が低くなっているのが大きな課題である。

問題はあるが、子どもたちが毎日楽しく教育活動が出来るように教育委員会としては支援しなければならない。一步一步やるしかないと考えているので、また今後もお協力いただければありがたい。

## 6 閉会